

【クリエイティブ（美容）分野（職域プロジェクト）】

「メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証」

（専門学校 東京ビジュアルアーツ）

課題・ニーズ・背景等

- ・美容業界の多様化とメイクアップ分野の拡大
- ・メイクアップは美容師の専属的職業範囲、資格と需要のミスマッチによるメイク教員の不足
- ・アーティストによる新理論と技術の導入の一般化
- ・バーチャル技術の限界とメイクアップへの回帰
- ・カバーメイク等新需要への対応の必要
- ・アングラ営業・健康被害の増加
- ・グローバル化による安全・安心の担保の要請

美容師等の現業部門の早期対応が必要

- ・現行教育制度では対応不可
- ・新理論と新技術の導入やその応用を踏まえたアドバンスレベルの教育プログラムの必要
- ・戦略的にはキャリアフレームワークの中核的専門人材の養成が喫緊の課題

取組の概要

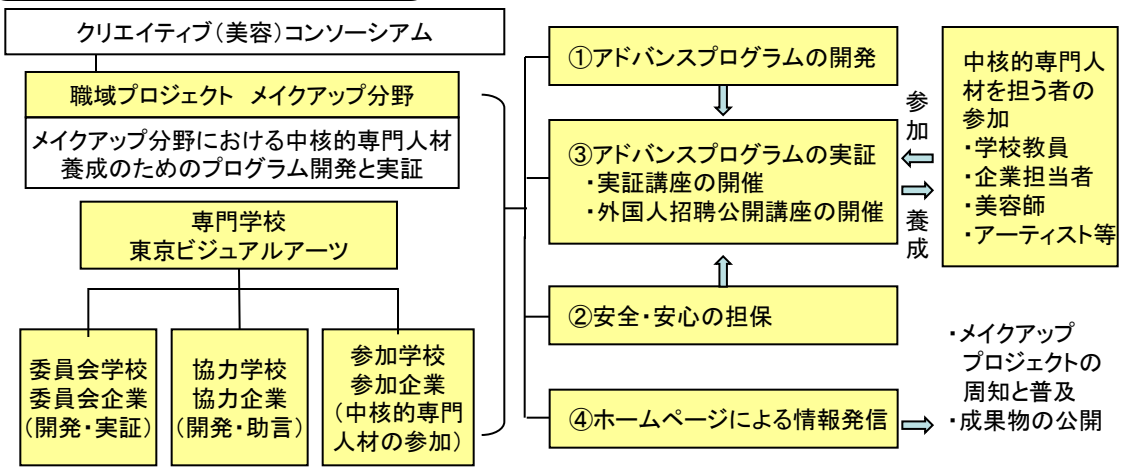
- ・メイクアップ新理論と新旧技術を使いこなし応用でき、教授できる中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

- ①新旧理論と新旧技術の統合とその応用の教育プログラム開発（メイクアップ アドバンスプログラム）
- ②施術側による安全・安心の担保（安全性チェックシートの開発と実証）
- ③メイクアップ アドバンスプログラムの実証
 - ・メイク教員、社会人美容師を対象とする実証講座
 - ・達成度の評価手法の統一と実証
 - ・受講者による開発プログラムの評価
 - ・外国人招聘講座によるグローバルレベルの認識
- ④ホームページによる情報発信

成果目標（アウトカム）

- ・テキストブックの製作と公開
新理論と技術を融合させた方法論およびその応用論のテキストブックの作成。実証講義に参加できない学校・企業等に配布し履修可能となる。
- ・メイクアップアドバンスプログラムの開発および実証（実証講座）による 早急な中核的専門人材養成
受講者：メイク教員70名、一般美容師等30名
- ・メイクアップレベルの安全・安心の担保
- ・実証講義を経た、自校へのカリキュラム導入
- ・生徒の作品制作の質的向上とインセンティブの向上
- ・実需対応の即戦力の確保
- ・メイクアップ分野の拡大による市場の拡大
- ・メイクアップアドバンスによるグローバル人材の確保
- ・新製品開発への情報提供

体制イメージ図



参加・協力機関等

- 教育機関
専門学校東京ビジュアルアーツ、山野美容専門学校、早稲田美容専門学校、群馬県美容専門学校、ECCアーティスト専門学校、静岡デザイン専門学校、日本ヒューマンセラモニー専門学校、国際デザインティーカレッジ専門学校、専門学校東京デザイナー学院、専門学校大阪デザイナー学院、金城学院大学薬学部、名古屋大学医学部保健学科、
- 産業団体・企業等
三善メイクアップ研究所、TEMPTU、株式会社百日草、嶺美会、株式会社メイクアップディメンションズ、株式会社百武スタジオ、株式会社ゾンビストック、株式会社インテンド、株式会社ラッシュドールジャパン、NPO全国介護理美容福祉協会、JAMA、ココスタジオ、(株)キュア・エッセンス

平成26年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」取組成果概要

【クリエイティブ(美容)分野(職域プロジェクト)】

「メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実践」

(専門学校 東京ビジュアルアーツ)

取組内容

・メイクアップ新旧理論と技術を使いこなし応用でき、教授できる中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実践

①新旧理論と技術の統合とその応用教育プログラム開発 (メイクアップ アドバンスプログラムの開発)

- ・委員会校・員会企業および協力校・協力企業よりなるプログラム開発担当委員によって開発
- ・メイクアップ教員、現役アーティスト、美容師、企業担当で構成され、実需対応できる即戦力の養成プログラムを開発する。

②施術側による安全・安心の担保

- (安全性チェックシートの開発)
- ・薬事担当委員によって開発する。
- ・メイクアップレベルへの簡易化による安全性チェックシートの開発を行う。下記③の実証講座において実証

③メイクアップ アドバンスプログラムの実証

- (メイク教員、美容師を対象とする実証講義の開催)
- ・上記①、②で開発されたプログラムの実証講座を実施
対象者:メイク関連教員、美容師、企業担当者等
受講者数:100名 6クール開催
実施期間:8月～1月:(1クール6日(月1回)×8時間)
東京:5クール、その他地方(関西予定):1クール
- ・メイク教員、企業担当者、アーティストによる実証講座。
- ・次回講義までの課題提出により練習時間の確保を行い理論と技術修得の度合いを高める。
- ・達成度評価手法の統一と検討。
- ・作品ブックの提出による、修得度評価を行う。
- ・受講者による、アンケートでの開発プログラムの評価。(外国人招聘公開講座の実施)
- ・グローバルレベルの認識
- ・学校の特別授業として行う(一般にも開放)

④ホームページによる情報発信

- ・普及活動一環としてプロジェクトの推移、成果を情報発信する。
- ・成果物(テキスト、報告書等)受付および発送を行う。

成果(アウトプット)

- ①メイクアップアドバンスプログラムの開発
中核的専門人材に必要な、新旧理論と新旧技術の融合やその応用アドバンスプログラムの構築
- ②安全性チェックシートの開発
安全性チェックのための理論・使用方法の修得
- ③メイクアップアドバンスプログラムの実証
・実証講座の実施
・外交人招聘講座の実施
- ④ホームページによる情報発信
メイクアップアドバンスプログラムの成果の周知と普及

成果の活用

参加校

- ・次年度の自校での開講
- アドバンスプログラム実証講座の参加メイク教員らによる、メイク学科・メイク関連学科にて、メイクアッププログラムを 正規のカリキュラムとして実施
- ・生徒の作品制作の質的向上
- ・就業機会の拡大
- ・メイク分野の拡大に伴う生徒数の増加
- ・グローバルに対応した人材養成

参加企業・参加美容師

- ・実需対応できる即戦力の人材確保
- 実証講座を経た美容師、会社担当者、アーティストによる、実需への対応
- ・技術普及に伴う製品市場の拡大
- ・メイクアップ事業分野の拡大
- ・製品開発のコスト削減
- ・グローバル人材の確保
- ・美容事故の防止

H23

クリエイティブ(美容)分野
コンソーシアム設立

H22

実践型人材育成事業
エアブラシメイクアップ
プロジェクト採択
メイクアップ基礎レベルの
構築完成

H23～H25

エアブラシ
メイクアップ
カリキュラム
導入済
(十数校)
・教員不足
・アドバンス
コースの
要望

H26

メイクアップアドバンスレベル
開発・実証
・アドバンスレベルの開発
・安全・安心の担保
・アドバンスレベルの実証
・テキスト作成
・教員のアドバンスレベル修得
と基礎レベル導入への自信
・アドバンスレベルの普及

H27

・アドバンスプログラムの標準化
・基礎レベルの導入促進
・アドバンス開講へのバックアップ
・メイクアップ分野拡大への対応
・より高度な人材養成(薬事法上の化粧品国家資格の取得要件の充足やスキンケア等)
・安全・安心を踏まえたグローバル人材養成
・コンソーシアムの下での段位補完